

## 釧路沿岸における降海後のサケの餌生物について

はじめに

近年、北海道太平洋側の秋サケ来遊数が減少しており、特にえりも以東の釧路地区において、その傾向が顕著に見られています。

秋サケの来遊不振の原因究明と資源の回復を目的として行われた水産庁委託事業「太平洋サケ資源回復調査事業」の一環として、さけます・内水面水産試験場では、一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会と共同で、死亡率が高いと考えられているサケが降海し沿岸に分布する幼稚魚期に、釧路沿岸において調査を行いました。ここでは釧路沿岸で採集したサケの餌生物についての調査結果をご紹介します。

降海後のサケ幼稚魚の採集と出現時期

平成 24～27 年の 4 月下旬～7 月下旬に調査を行いました。新釧路川を挟んだ西港と東港の港湾内において、たも網を用いて海面付近を遊泳するサケを採集しました（図 1）。また、釧路港の港湾外（1km 沖）の A2、B2 の定点では、表層で網を水平曳きすることにより採集しました。

港湾内で採集されたサケの体サイズは 3～5cm の個体がほとんどでしたが、港湾外では港湾内よりサイズが大きく、時期によっては様々な大きさのサケが採集されました（図 2）。年による違いはありますが、サケが多く採集された時期は、港湾内では 4 月下旬から 6 月下旬位までであり、港湾外では 5 月中旬から 7 月上旬位まででした。



図 1 サケの採集風景



図 2 港湾外の定点で採集されたサケの体サイズ（H27 年 6 月下旬に定点 B2 で採集）

サケの胃内容物

採集したサケの胃内容物を調べました（図 3、図 4）。港湾内においてサケは魚類仔魚、アミ類、十脚類（エビやカニ）、端脚類（ヨコエビ）等を捕食し、サケの出現数が減少する 6 月中～下旬以降は、前述の餌生物と比べると小型で遊泳力の弱いカイアシ類の占める割合が大きくなりました。港湾外においては、魚類仔魚を主に捕食していましたが、6 月中～下旬以降は港湾内と同様に、カイアシ類の占める割合が大きくなりました。また、毎年

6月下旬頃、港湾外で大型の幼魚が採集されましたが、幼魚はサイズの大きい餌生物である十脚類を選択的に捕食していました。

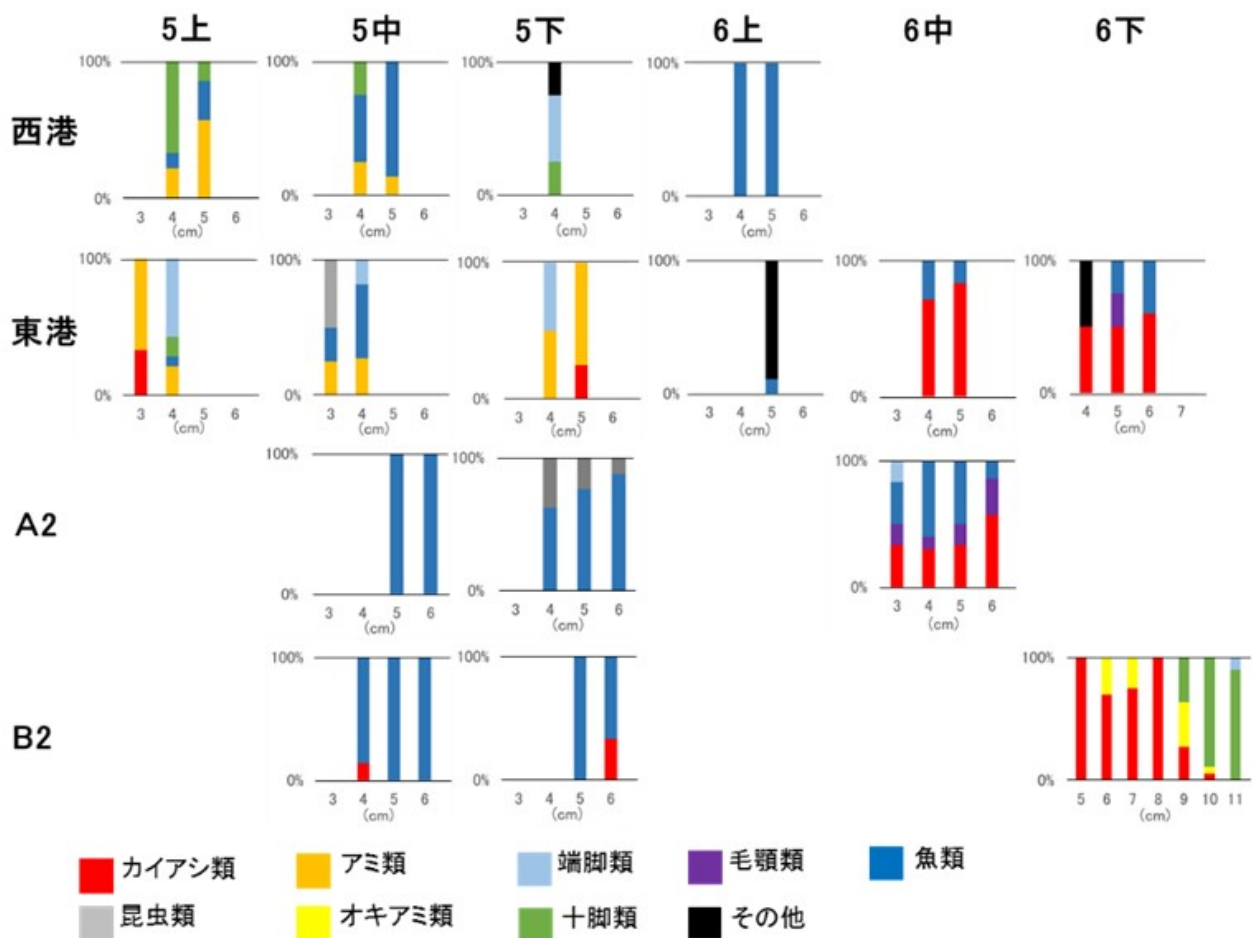


図3 定点、調査旬、体サイズ(cm)別のサケ胃内容物の容積組成（平成24年）

おわりに

降海後のサケはカイアシ類を中心としたプランクトン（浮遊生物）を利用しているイメージがあるかと思いますが、釧路沿岸では餌生物量の増減や自身の成長に伴い、多様な餌料環境を利用していると考えられます。

一般的に、サケの放流は海水温が5℃以上となる時期に合わせて行うことが良いとされていますが、北海道は地域により海洋環境や餌料環境が大きく異なるため、各地域の環境に合わせた放流が必要であると考えられます。

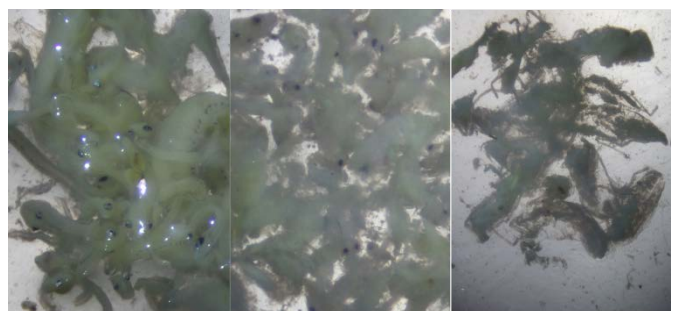


図4 サケの胃内容物  
（左から魚類、十脚類、カイアシ類）